



# ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2010年（平成22年）7月25日号 No. 1502

## 目次

■ <b>ロシア経済の未来像</b> ..... 中居 孝文 1	
—「2020年までの長期社会経済発展コンセプト」を読む—	
■ <b>統計速報</b> ..... 9	
2010年上半期のロシア経済 / 9	
■ <b>キーパーソン</b> ..... 10	
国民投票終了後のキルギス新政府体制 / 10	
■ <b>エトセラ</b> ..... 12	
『調査月報』2010年8月号のご案内 / 12	
■ <b>トピックス</b> ..... 13	
日産・ルノー、AvtoVAZに投資 / 13	
JOGMEC、カザフの鉱物資源探査・開発 / 13	

## ロシア経済の未来像 —「2020年までの長期社会経済発展コンセプト」を読む—

ロシアNIS経済研究所 次長

中居 孝文

### はじめに

2010年6月18日、ロシアのメドヴェージェフ大統領は、サンクトペテルブルグ国際経済フォーラムにおいて、今後10年の間に経済発展のモデルを原料輸出型からイノベーション型に移行し、経済の構造転換を図ることによって、ロシアの「近代化（modernization）」を実現する旨の演説を行った<sup>1)</sup>。この演説は、ロシアにおける事実上の危機終息宣言及び新政策への移行宣言とも読み取れ、内外のメディアでも注目された。

「近代化」の対象は政治・経済・社会など多岐にわたるが、経済面での「近代化」政策の大本となっているのが、2008年11月17日にロシア政府によって承認された「2020年までのロシア連邦の長期社会経済発展コンセプト」（以下「2020年コンセプト」と略）である<sup>2)</sup>。

「2020年コンセプト」は経済危機の真っ只中に採択され、またその後ロシア政府も危機対策を優先し、本コンセプトの実行を後回しにせざるを得なかったために、これまであまり注目されてこなかった。だが、上記の通り、ロシアは危機を克服して新たな段階へ踏み出そうとしており、その方向性は「2020年コンセプト」の内容とほぼ符合する。本号では「2020年コンセプト」に改めて着目し、その要旨を紹介することによって、経済に関してロシア政府がいかなる未来像を描いているかを探ることとしたい。